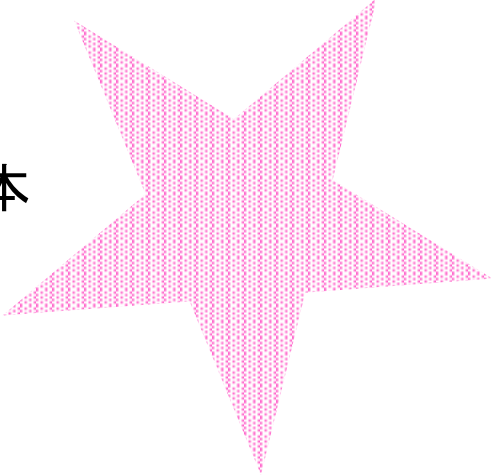


ヤングアスリート™ コーチクリニック資料

公益財団法人スペシャルオリンピックス日本
2017年4月版



はじめに

スペシャルオリンピックスの使命は

年間を通じたさまざまなオリンピック形式のスポーツのトレーニングと競技会を、知的障害のある人たちに提供するものです。

スペシャルオリンピックスは体力の向上にはもちろんのこと、勇気を表現することや、楽しみを経験するためにも、継続的な機会を提供します。

アスリートはスペシャルオリンピックスのプログラムに参加することで、技術の習得や友情を、家族、地域の人々や他のアスリートといっしょに分かち合うことが出来るのです。



1. ヤングアスリート™とは？

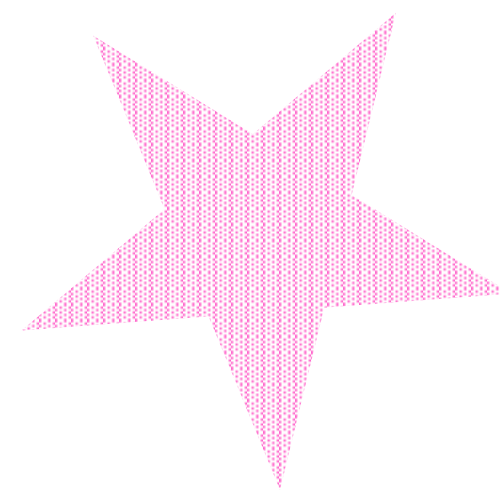
ヤングアスリート™は、
2歳半から7歳の幼児期の子ども達を対象にした
スポーツと遊びを融合させたユニークな活動です。

ゲームや歌などを取り入れたプログラムで楽しく身体を動かしながら、
子どもたちは運動能力の基礎であるボールを蹴ったり投げたりするスキルや、
他の子ども達とプレーすることを、参加しながら身に付けていきます。
ヤングアスリート・プログラムには障害のない子ども達も一緒に活動します。

ファミリーにとっても楽しい活動ですし、また
スペシャルオリンピックスに参加している他のファミリーとの繋がりを作ることができます。



写真提供：Special Olympics Inc., スペシャルオリンピックス日本・岡山



2. ヤングアスリート 実施の背景

SO国際本部がこれまでに実施した
子ども向けプログラム

● 1970年代初頭

Let's Play to Grow

(あそぶことで成長しよう)

- 12種類の活動：ダンスからソフトボールまで
- 実施方法はさまざま
- 30時間活動すると、SOから修了証とワッペンをもらえる
- 約10年続いたが、連邦政府からの基金が減少し休止となった

● 1997年

Play Activity (遊びの活動)

- 6歳～7歳の子供向け。
- 計画的なプログラム：明確な目標、活動スケジュール、技能評価を行う 等
- あまり広まらなかった

● ヤングアスリート

2. ヤングアスリート 実施の背景 (2)

ヤングアスリート™の完成まで

- これまでに行ってきた2つのプログラムの検証をし、SOニュージャージーが中心となって、ヤングアスリートプログラムを開発した。

2005年 完成

- 2005年後半～2006年
世界21カ国でパイロットプログラムを実施
- 2007年 SO夏季世界大会・上海で紹介

2014年末には140の国と地域で実施され、アスリート数が
110,486人に増加
(2012年には65,806人)



3. ヤングアスリート™の目的と目標（目的）

- **アスリート：**

楽しい活動“遊び”を通じて
スポーツの基礎となる、
身体と認知、社会性の発達を促す

- **ファミリー：**

知的障害のある子ども達を持つファミリーと
SO活動に参加している
同じ障害のある子どもを持つファミリーとの
繋がりを作り、必要な支援を得られるようにする

- **地域社会：**

仲間（「ピア」と呼ぶ、障害のない子ども達）が
一緒に活動に参加すること、
また発表会を開くことによって
知的障害のある子ども達のできる力に対する
理解を広げる



3. ヤングアスリートの目的と目標（目標）

1. 楽しもう；

ヤングアスリートでは楽しむことが一番大切です。子供達や仲間（ピア）、ファミリーや指導者、その他参加者がヤングアスリート・プログラムに参加して楽しめるよう常に心がけてください。

2. 知的障害のある子供達とファミリーにスペシャルオリンピックス活動を紹介しよう；

ヤングアスリートはスペシャルオリンピックス活動に初めて参加する機会として、最もふさわしいと言えます。

3. 知的障害のある子供達の成長を支援しよう；

ヤングアスリートの活動は、知的障害のある子供達の成長（身体・知的・社会性）を促すように作られています。

4. 知的障害のある子供達の能力（できること）を社会に知らせよう；

ヤングアスリートは、仲間（ピア）と一緒に参加したり、地域の人が見に来ることが出来る発表会を開くことによって、知的障害について、地域全体での理解を広めることができます。

5. 知的障害のある子供達が8歳になるまでに、スペシャルオリンピックス活動でトレーニングし、競技に参加する準備をしよう；

ヤングアスリートの活動は、スペシャルオリンピックスでのトレーニングや競技会へ参加するのに必要な基礎能力の導入と、その発達のために作られています。

4. 参加による効果（調査結果より）

• アスリートにとっての効果

- 運動機能の向上：8週間のプログラムに参加したアスリートが7ヶ月分の発達を見せた一方で、コントロールグループ（参加していないグループ）は3ヶ月分だった。※
- また、指導者や保護者からの報告によると、社会性や言語面での発達も見られた。

• ファミリーにとっての効果

- 親や兄弟は若いアスリートたちと楽しく遊ぶことを学べた
- アスリートが新しいスキルを身に付けると、保護者達の子どもに対する期待が高くなった

※レッスンサマリーカードの内容を、1週間に3回、30分間／回の活動をした場合。

詳しい研究内容はCenter for Social Development and Education「Young Athlete Study Fact Sheet」November 16, 2011.

5. ヤングアスリート™の実践

(1) プログラム実施の方法

① 会場の例

✓ 3つのモデル（地域、学校、家庭）

学校、幼稚園や保育園、デーケアセンター、療育センター
行政が運営するサービス、家庭 など

※ 協力者・組織・団体を募り、協力関係を構築することが大切です

② 時間、頻度

✓ 他のSO活動と同様に、8週間以上の継続的なプログラム

✓ 家庭でも取り組めるように配慮

③ 発表会

8週間のプログラムが終われば、競技会の代わりに発表会を行い、参加の証（修了証など）を贈る

行政、関係団体、学校、スポンサーなどを招待すると良い



5. ヤングアスリート™の実践

(2) プログラム実施の3つのステップ

ステップ1 計画

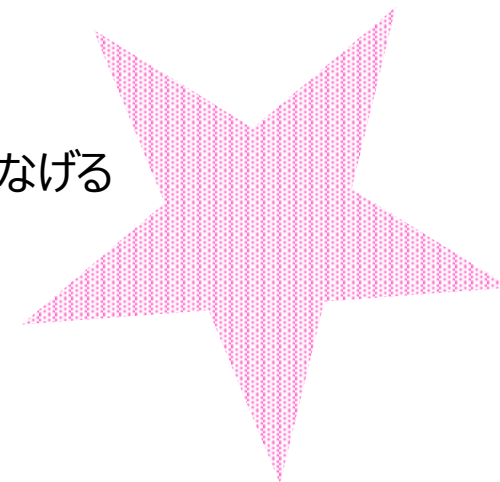
- a. プログラムのコーディネーターを決める
- b. 事業を計画を立てる
プログラムの実施日程、会場、内容、資金調達、発表会などイベント企画、
広報、予算立て
- c. 協力者・団体・組織を募る（例：会場を無償提供してくれる施設、ボランティアとして参加してくれる大学など）
- d. 参加者の登録（地区組織への登録、参加同意書の提出）
- e. （必要に応じて）コーチクリニックを開き指導者育成

ステップ2 実施

- a. 参加者向け／協力者向け説明会の実施
- b. プログラムの実施
- c. 発表会を開き、地域での広報・周知活動、さらに資金調達につなげる

ステップ3 評価

- a. 指導者、ファミリーなど関係者からの意見を聞き取る
- b. プログラム拡大のための計画を立てる



5. ヤングアスリート™の実践

(3) ヤングアスリートプログラムについての資料

- ヤングアスリートアクティビティガイド
プログラムで使用できる活動例が紹介されています
- ヤングアスリートプレーブック
プログラムを実践するために必要な情報がまとめられています
※ 内容は少し古いので参考程度に
- トレーニングDVD
- カリキュラム（英語のみ）
- レッスンサマリーカード
- パンフレット
- 道具セット（右の写真）

英語の資料はこちらにあります。

http://resources.specialolympics.org/Topics/Young_Athletes/Young_Athletes_Toolkit.aspx



99ドル。但し送料が別途必要。
インターネットで購入できます。

- For Programs
- Sports & Games
- Communications
- Fundraising
- For Volunteers
- Youth & Schools

SOI Main » Resources Main » Topics

 Listen

Young Athletes Toolkit

The Young Athletes Program was established by Special Olympics International to provide early developmental opportunities for pre-school children, utilizing guided motor activities. It is based on a proto-type program created for Special Olympics New Jersey by the University of Medicine and Dentistry of New Jersey. Children ages 2 ½ to 7 with intellectual disability typically have little access to motor activity programs, including organized play, and sports skill development. The activities presented in the program are designed to advance development of young children with intellectual disability who typically lag their intellectual disability.

Follow Us



Spirit E-Newsletter

Stay in touch! See inspiring stories, photos and videos in our Special Olympics newsletter.

Sign Up Now



NOTE: This program is recommended to be implemented as an inclusive model (without intellectual disability together) on a group basis and/or as a family based program, which has been implemented in many communities around the world for children for future participation in sports, including making them ready earlier than the case.

The toolkit will continue to be expanded with the generous funding of Kim Samue Foundation, so check back periodically for new materials.

Informational Resources

These tools provide background information about the Young Athletes program.

- [Sign Up for Young Athletes Newsletter](#)
- [Young Athletes Brochure \(PDF\)](#)
- [Introductory Slideshow](#)
- [Young Athletes Program Report Presentation, December 2012 \(PDF\)](#)




Core Program Activity Resources for Families, Coaches and Teachers

SONリソースページ

- ホーム
- 基本資料
- スポーツ
- 会議・研修会
- 広報
- 健康
- 調査研究
- 統計
- 規程
- よくある質問
- フォーラム

ヤングアスリート

ヤングアスリート

-  アクティビティ・ガイド (1.76 MB)
-  ヤングアスリート・ブレイク (978.24 kB)
-  ヤングアスリート・リーフレット (213.71 kB)

SO日本HP リソースページ

FIND A LOCATION

Our Supporters

5. ヤングアスリート™の実践

(4) アクティビティ（活動）について

アクティビティガイドには基礎運動から応用スキルまで8つのカテゴリーに分かれて、そのままプログラムで使用できる活動例が紹介されています。

また、アスリートの状況や上達にあわせてアレンジすると、さらに楽しめます。

- | | |
|--------------|----------|
| 1. 基礎運動 | 5. ボール投げ |
| 2. 歩くことと走ること | 6. 打つこと |
| 3. バランスとジャンプ | 7. キック |
| 4. トラップとキャッチ | 8. 応用スキル |

プログラムを立てる時には、「一貫したトレーニング」「アスリートの運動発達に応じた課題設定」なども意識しましょう。一回のプログラムの中で、バランスよく多様な動作ができるよう配慮が必要です。



5. ヤングアスリート™の実践

(5) プログラムで注意すべきこと

- ヤングアスリートは“楽しい”ことが大切。思わず参加したくなるよう「環境が誘いかける」プログラム作りを心がけましょう
- 子どもたちは、お腹が空いていたり、疲れていませんか？
- 活動する前に、保護者の許可を得ましたか？（参加同意書）
- 指導する人はアクティビティのことをよく理解し、慣れておきましょう
- 上手な人のお手本を見たり、DVDを見たりしておくといいです。子どもたちに見本をみせる練習をしておきましょう
- アクティビティをする前に説明をしましょう。また見本を見せると子ども達の理解を助けます。